

私の祖父母は設楽町在住で、旧鳳来町や豊川市にも親戚が住んでいるので新城は馴染みの土地です。新城で地域医療研修ができることを楽しみにしていました。

4週間の地域医療研修を通じて実感した奥三河地域の医療は決して楽観視できるものではありません。10数年前に新城市民病院の医師が不足し、救急の受け入れ制限をせざるを得なかったこと・奥三河地域の患者さんは新城からさらに遠い豊川や豊橋へ通院しなければならなかったこと・そのような状況を打開するために県から医師が派遣されることとなったこと等、現在までの経緯を教えてくださいました。名古屋などの都市部では住んでいる街に入院可能な大きな病院があることが当然のように感じます。救急車が1時間かけて患者さんを搬送してくることはまずありません。例えば、片道1時間の距離から救急車で搬送された患者さんが入院の必要なく帰宅可能となった場合、どうやって帰るのか。迎えに来てくれる家族はいるのか。家が山間部だが車の運転ができないため通院困難な患者さんはどうすればよいか。都市部では体験することのない地域特有の問題と向き合う場面に数多く遭遇しました。問題解決のために、医師・看護師・リハビリスタッフ・地域医療連携スタッフ等の医療従事者間で話し合いの機会を設けて必要な手続きを早急に進めていく様子を見て地域医療こそチーム医療であることを実感しました。

総合診療科での研修は毎朝の勉強会で最新のトピックスに触れたり、各科の専門知識を教えてくださいいただき勉強になりました。私も日常診療で疑問に思ったことについての論文を探して勉強会で発表することで疑問に思ったことを疑問で終わらせない姿勢を身に着けることができました。夕方にはその日の診療の振り返りを行い、問診で聞くべきポイントや診察のポイントなど上級医に教えてくださいいただき、翌日以降の診療の参考にすることができました。研修医である私はまだまだ知らないこと・分からないことが山ほどあり、「知らないことはまだまだあるということを知る」良い機会となりました。

研修中にはしんしろ助産所・老人保健福祉施設の見学や訪問看護・訪問リハビリの同行、作手診療所での診療に参加する機会も設けていただき市民病院外での地域医療も学ぶことができました。新城市民病院と各施設のスタッフのみなさま、貴重な経験をさせていただきありがとうございました。